

* 百里の魅力 *

百里の農民達は、平和を愛する人々の希望の星

今から23年前、1989年6月20日に百里訴訟の最高裁判所判決が下される直前の2月初午まつりのために書かれたものです。平和かわら版の読者に当時のことを知ってもらえればと、今年の初午まつりのあと池田さんから送られてきました。臨場感あふれる文章は、今読んでいきいきとしています。

『1989年度 百里初午祭』

池田 真規 (百里弁護団)



今年の初午祭に、反対同盟の宣伝紙「百里」を出すので、百里裁判の見直しなど書いてほしい、と宮澤委員長から電話があったので、気軽に引受けたものの、いざとなると少し困った。というのは、最高裁の判決の予想は簡単に出来ないし、色々なケースが考えられる中から、少なくとも、原審の東京高裁は、最高裁にとっても、そのまま認めるわけにはいかない判決だ、ということだけは確かだと、言える位だからである。又、この様な政治状況の中で、最高裁の判決が、人民の広汎な平和、反戦の運動の波を左右する程の影響をもつものと恐れる必要もないだろう、と私は思う。百里の農民達は、かって弁護団に対して「百里裁判で勝ったらこの百里基地はなくなりますか」と尋ねて弁護団をギョッとさせたことがある。

百里の農民達は、長い長い、軍事権力との直接の闘いの中で、戦争のための基地をなくす力は、人民の闘いであることを体で知っているのである。裁判は、その人民の闘いの一環なのだ。といって裁判を決して軽視しない。むしろ、非常に大事にする、しかし、裁判に全面的に頼ることをしない。この辺りの百里の反対同盟の人々の行動は、実に見事と、いう外はない。

自衛隊という名の憲法違反の軍隊は、30年もかかって、このような凄惨な百里の農民を鍛え上げたのだから、皮肉なことである。彼らは「戦争のためには土地を渡さない」という目的で一致し、団結し、行動する。30年余の間、人間的な悩み、迷い、

邪念、疲労、その他様々な困難を乗り越えて、一つの信念を貫き通した、その人間の凄さをもっているはずなのに、彼らは、凄さを感じさせない。共通する点は、明るい楽天性である。彼らは、自分の頭で考え、自分の考え方を自分で作り出して行動する。真似ごとはしない。指針がしっかりしているから、その実現のために、創造的に自由な発想をする。その傑作が「基地の中の平和公園」という壮大な、そして嬉しくなる発想だ。「軍事基地を平和公園に」というスローガンは、基地撤去闘争の共通のスローガンとしても素晴らしい。全世界の人民が、この共通スローガンで闘えば「戦争が地球からなくなってしまう」という愉快な夢をもたせるではないか。当初の航空自衛隊百里基地の建設反対闘争が、30年余の闘いの中で、世界中の反基地闘争でも、最も先進的な闘いを示すに至った、という事実を、私たちは、百里の農民達と共に確認してよいと思う。

そして、私は、平和運動に参加する中で、素晴らしい百里の農民と戦友になれたことを心から幸せに思い、又誇りにしたい。百里の闘いは、これからも更に長く苦難の道が続けるだろう。しかし、世界の人民の平和を求める闘いの歴史の流れは、確実に、百里の農民達が目指してきた方向に進みつつあることは間違いない。だから百里の農民達は自信にあふれて、楽天的なのだ。

これが百里の魅力なのだ。平和公園の完成、また魅力がふえました。百里の闘いは、本当に人々に元気を与えてくれる。

百里の農民達は、平和を愛する人々の希望の星なのだ。

『さよなら原発4・1大集会inいばらき』

4月1日 (日) in 笠松 運動公園 11:00 ~ 交流テント

ふくしまとつながって

会場をいっぱいにくめつくして集会を成功させましょう!

12:00 ~ ステージ
13:00 ~ 大集会
集会終了後パレード

土浦でも実行委員会が結成

※ 2月12日に憲法九条土浦の会・年金舎組合・新日本婦人の会・保健生協・土浦労連・土浦革新懇・土浦民商・土浦平和の会の代表が土浦実行委員会結成を決議し、4・1大集会 成功のために事務局の設置を決めました。

多彩な地域の活動、

困難な取りくみを語り合おう!

県大会までに100名の仲間を迎え入れましょう!

～ 県活動交流集会のお知らせ ～

とき : 3月17日 (土)

午後1時から5時まで

ところ : 水戸市福祉ボランティア会館(赤塚駅前ビル)

ミオス 中研修室・小研修室

内容 : 100名の仲間づくりと運動の前進についての経験交流。

会の進め方については、代表理事で検討中。

※ 各平和の会 (平和委員会) は、複数参加をお願いします。



【お願い】

○ 「活動交流集会は、常任理事・理事はもちろん、役職に関わらず、日常活動を進めている多くの仲間の皆さんの参加が重要です。

○ 活動の成功例だけでなく、困難な問題やうまく行かなかった事、気がついた事など、各平和の会 (平和委員会) の仲間の豊富な経験を全体のものとし、今後の活動に生かしたいと考えます。

○ 参加を幅広く呼び掛けて下さい。

○ 「仲間づくり推進員確認」のとりくみを進め、それらの経験も持ち寄りましょう。 以上

平和新聞

2012年2月25日 (土曜日)

1979号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版

No. 617

2012.2/25

発行 : 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

“さよなら原発” 古河・猿島地域集会 「東海第2原発を廃炉に」

とき：3月17日（土）午後1時30分
ところ：スペースU（旧古河市庁舎脇）

主催：古河9条の会、坂東市九条の会
境町9条の会、9条の会こが

チラシには、「9条の会こが」の大谷さん（平和の会
会員）が『被災1周年3.17集会に私たちの怒りを結集
させよう！』と次の文を記載しています。

私たちは、この世に安全な原発など存在しないことを心底知
らされた。

それも、多くの人たちの多大な苦しみ悲しみとひきかえに。
私たちが真実を知るための代償はあまりにもおおきかった。
私たちはもうだまされない。どんな甘い言葉にも
私たちは屈しない。どんな脅しにも。

私たちは怒っている。本気で起こっている。

原発を推進し、これからも推進しようとしている者たちに。
豊かなふるさとをめちゃくちゃにしてしまった者たちに。
そして、そのことに対して

反省する事もなく、責任をとろうとしない者たちに。
何も終わっていないのに「収束」と言う言葉を平然と使っ
ている者たちに。

私たちの怒りは深い。

私たちの怒りは熱い。

私たちのこの怒りの炎を決して
絶やしてはならない。

原発がこの地上から
なくなるまで。



2012 3.1ピキニデー

2月28日～3月1日 静岡市・焼津市で開催

～『核兵器のない世界へ』

の声を世界に発信～

昨年（2011年）の3.1ピキニデーに参加した青年から「2011年3.1
ピキニデーの感想」と題して感想文を寄せて戴きました。

2011年3・1ピキニデーの感想



H.S（竜ヶ崎市在住・26歳）

この度3・1ピキニデーに参加したことで、テレビや新聞など
を見ているだけではわからないピキニ事件に関する多くのことを
学ぶことができました。

日本ではピキニ事件は第五福竜丸に焦点をあてて報道されるこ
とが多いが、第五福竜丸以外にも1000隻、2万人を超える漁船
の乗組員が被災した可能性があり、被災者に対して未だに十分な
救済処置がされていないということを初めて知り大変驚いた。ア
メリカ政府の要求を受け入れ汚染検査を打ち切った日本政府の判
断は当時の状況では仕方の無いことだったのかもしれないが、被
災者が存命のうちにピキニ事件の全容解明と被災者への十分な補
償がされるべきであり、現在の日本政府の対応に期待したい。

また、マーシャル諸島共和国ピキニ環礁自治体首長のアルソ
ン・ケレンさんのお話を聞いたことで、水爆実験の被害を受け
たのは日本人だけではなく、マーシャル諸島や近隣諸国の人々も
被害を受けていたということを改めて認識することができた。さ
らに、放射性降下物は周辺地域だけでなく米国本土、中南米な
ど広範囲に降り注いでおり、水爆実験は世界中に影響を与えて
いたということを知ることができた。このように核兵器は広域にそ
の影響を与えてしまうことから、核兵器廃絶は一部の国が行うだ
けでは効果はなく、すべての国が取り組まなくてはならない問題
であると感じた。

ピキニデー集会では東洋大学の学生の発言があったが、大学
キャンパスでの署名をはじめとした活動報告の内容にとっても関心
を持った。平和を願う気持ちはあるが普段はあまり意識をしな
い、あるいは具体的にどのような活動をすればいいのかわからな
いという学生はたくさんいると思うが、署名活動を通してそのよ
うな学生に核兵器廃絶に興味を持ってもらったり、考えるきっか

【シリーズ】わか街・わか会員

笠間市 / 島田 修一 さん（内原・友部平和の会）



友部の地を終
の棲家として



「撃ちてし止まむ」「すすめ一億火の玉だ」…東京・戸山
国民学校に通う私が毎朝目にしたのは、薬局に貼られたこの大
きなポスター。大震災直後、けたたましく叫ばれた「がんば
ろう日本」「茨城魂」のスローガンを耳にしたとき、あざや
かに私の脳裏に甦りました。

洋紙問屋をしていたわが家は戦需景気の中でつぶれ、敗戦の
前年に千葉・大原町に疎開、父はしきりに「東条の大馬鹿野
郎」「岸（信介）の馬鹿野郎」とつぶやいており、祖母が
「そんなこと聞かれたら憲兵に引っ張られるよ」と心配してい
たのを憶えています。戦争の無謀さと無責任な戦意高揚政策を
批判する「大正デモクラシー」と「商人の心意気」は、私
の身体にDNAとなって染みこんでいるようです。

大学時代、砂川基地反対闘争に参加して警棒でたたかれ、
スクラムから引きはがされたあと「赤とんぼ」の大合唱で警
官隊と対峙しつづけた経験は忘れられません。橋下大阪市長の
狙う教育の政治支配は、1956年の教育委員公選制廃止の流れ
を受けたもので、当時南原繁元東大総長は「思い起こせ満州
事変の前夜」と新聞紙上で鋭く批判していました。

縁あってこの友部の地に終の棲家を求めた私は1935年生ま
れ。いま、次の世代に何を語り継ぐべきか日々考えています。

けを与えることができると感じた。また、核兵器廃絶に関する
活動は年配の方が行っていることが多いような印象があるが、同
世代の人の活動している姿を目にすることで何か感じることもあ
るのではないかと思った。自分も若い人達に活動の内容を伝える
側として行動していきたい。

様々な人からピキニ事件に関する話を聞いたことで、あらため
て核兵器のおそろしさを学ぶことができ、核兵器廃絶への思いを
強くすることができた。今回の経験を生かして、2020ビジョン
の達成に向けて自分も何らかの形で貢献していきたい。